

ランチョンセミナー 1

2月8日 (木) 12:30-13:30

第1会場 (コンgresクエア羽田 ホール2)

Santen

明日から変わる ドライアイ診療

—治療継続に着目した治療戦略—

座長



横井 則彦 先生
(京都府立医科大学)

ドライアイは治療期間が長期に及ぶ慢性疾患であるため治療を継続することが重要であるにもかかわらず、様々な理由により治療を途中でやめてしまう例が散見されます。その理由は多岐にわたりますが、医師の説明不足の場合、患者さんのドライアイに対する理解が乏しい場合、患者さんが治療効果を実感できない場合などが考えられます。ドライアイに対して、我々眼科医は的確な診断と治療を行い、治療効果を実感いただくために他覚所見に基づいて治療経過を伝えることが重要です。治療においては、有効性、安全性、利便性のバランスが求められており、病態に即した治療効果を示すこと、副作用が少ないこと、負担が少なく継続しやすいことが必要な要素と考えられます。

そこで本セミナーでは、石川先生よりご施設での臨床経験を基に、治療継続の視点でみたジクアスLX点眼液3%の価値についてお話しいただきます。小島先生からは、TFOD/TFOTに基づく薬剤の使い分け、治療継続のための患者さんへの説明のコツについてご講演いただきます。

本セミナーでは、ドライアイに悩まれる患者さんの治療継続について日常診療の一助となるポイントがたくさん含まれていると思います。ぜひ、本セミナーにご参加いただき、明日からの診療にお役立ていただければと思います。

演者 1



治療継続の視点でみた
ジクアスLX点眼液3%の
価値

石川 聖 先生
(埼玉医科大学)

演者 2



ドライアイ点眼治療
—使い分けと継続のコツ—

小島 隆司 先生
(名古屋アイクリニック)

共催：参天製薬株式会社